



音楽運動



日本音楽協議会 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3丁目10-15 富士ビル505号室 発行人 松本敏之
TEL 03-3221-1821 FAX 03-6369-3057 URL <http://nichionkyou.org> Email nichion@yomogi.or.jp

復帰50年！3年ぶりの日音協沖縄行動

沖縄が日本に返還されて50年という節目を迎え、3年ぶりに開催された平和行進と県民大会に参加しました。

5月14日の平和行進は、コロナ感染拡大防止を配慮し出発式会場での演奏場所確保は難しいということで、出発式送り出し演奏は中止にして平和行進団と共に歩きました。そして途中で行進を抜け、到着会場に車で先回りをして、行進団を演奏で迎え入れました。基地の島の沖縄を、雨の中歩き通した方々を歌で出迎えると、多くの参加者が笑顔で手を振り返してくれたり手拍子してくれました。参加者と、歌と演奏で沖縄への思いを共有できた瞬間でした。



雨の中の出迎え演奏（八重瀬公園）



平和行進に日音協も旗をかげ歩いて参加

オブション行動は、当初は辺野古の座り込み行動に参加する予定でしたが、工事が休みのため座り込みも中止ということ、辺野古漁港に小屋とテントを建て1997年から辺野古基地反対闘争が続いている「命を守る会」で辺野古埋め立て工事の現状を伺い、その場で一緒に歌を聴いた。来年もきてください」と逆に励まされて帰ってきました。

夜は、宮城康一さんのスタジオで、恒例の交流会。初めて聴く佐藤満さんの美声を堪能。Ricco & Tatsu・Cantusカントウス・

Piggies(ピッグイズ)・沖音協と恒例のグループが持ち歌を披露した後は、お待ちかねの宮城康一ライブ。その後は、宮城さんの提案で即興演奏でのフリーコラボ大合唱、カントウスの高野さんのリードで「決意」ロックパージョンと、歌と演奏で大いに盛り上がりしました。

5月15日の沖縄返還の日が開催された県民大会は、オープニング演奏も『沖縄を返せ』の歌もありませんでした。が、まさにいま沖縄が抱える問題を参加者と共有し、最後に全国の仲間と「団結してがんばろう」と拳をあげて確認しあった意義深い大会となりました。（坂口美日）

沖縄行動参加者

- 佐藤満（長野）
- 森理子（東京）
- 森達哉（東京）
- 高野ゆり子（東京）
- 犬塚喜久男（東京）
- 坂口美日（東京）
- 松本敏之（茨城）
- 沖音協
- 山城文雄
- 平良昌史
- 嘉数正光
- 石川薫



宮城康一スタジオ 全員でコラボ



辺野古漁港「命を守る会」での演奏

たかが歌されと歌⑦ 天羽憲治

あとがきにかえて

(1997年4月) 日音協事務局長

はたらくものの音楽祭が三〇回を迎える。私の勤続年数も三〇年になる。

私が郵便局に就職した年に第一回の音楽祭が開かれたことになる。

残念ながらその年は東京にでてきたばかりで、そんな事に関わる暇もなく都会の生活に馴染めずに不安な日々を送っていた、音楽祭には第二回からの参加でした。

私が日音協に関わった最初の日音協アコディオン教室で、なぜ歌う事ではなくて楽器から関わったのかについては少し理由があります。

私は高校を卒業して直ぐ郵便局に就職したわけではなくて、一年間アルバイトをしていました。

その職場に音楽好きな人が何人かいて、その人達に誘われて行ったのが「日本のうたこえ」のサークルでした。

そのサークルでアコディオンを弾いていた人に憧れたのです。自分もあんな風にアコディオンを弾いてみたい。弾けるようになってやる。と思ったのが始まりでした。



若かったなあ

結局、今の私を見てもらえれば分かるようにモノになっていませんが、しかし、この一年間は最後の私にとって非常に良い体験でした。

このサークルで、日本と世界の古典的な、或いは代表的な労働歌、闘争歌を覚える事ができました。

今の私にとって大きな財産になっています。

郵便局に入ったのが一九六七年。七〇年安保改定の前段で、労働組合運動も学生運動もセクト運動も元気で、これから迎える山場に向かって労働運動もそれぞれのセクトが勢力拡大を狙って活発に活動していた時代でした。

当然私もそれと無関係に存在出来るはずもなく、むしろこういった社会的、政治的な事柄に関心の有った自分としては積極的にその中に身を置いた、といっているでしょう。

この事を通して労働運動とはセクト運動とは、社会の仕組みは、など教えられ、この事が自分の考え方、価値基準等を自分流に創っていった時でした。この事も今の私にとって大きな財産になっています。

こんな中においても音楽活動を止めることはありませんでした。

日音協アコ教室からその後、これも日音協の合唱団である「日本合唱団」(なんと凄い名前の合唱団だ)に入り、ここから歌う活動に入っていきます。

発足した当初、日音協には吹奏楽団がつくられ、日本合唱団も芥川也寸志組と林光組に分かれていて、音楽家として「芥川也寸志」「林光」「印牧真一郎」「岡田和夫」の諸先生がいて、これだけの錚々たる個性豊かな音楽家が居た幸せな時代は直ぐに終わり、私が「日本合唱団」に入った時はすでに岡田・印牧両氏がダブルキャストで指揮者としていた時でした。

職場では労働運動と街頭デモに明け暮れているが、合唱団練習の日はこのことを優先していたと記憶しています。

余談だが、一九六七年四月に

入局して翌年六八年の一月には減給二ヶ月の処分を受けている。

この理由は局長室前の座り込みでアコを弾いて扇動し、煽り唆した罪、ということらしい。しかも、これは座り込んだ仲間の中で一番重い処分だった。

ここから自分の行く方向が決まった、と今でも思っているくらい大きな出来事でした。

「俺はアコを弾くのが楽しかっただけなんだヨ」くらい意識しか無かった時でしたから、なんで?

この時、私を処分しようとした管理者達は私に危機感を持ったのではなく、アコを弾く私に危機感を持ったのだと思います。

つまり、彼らは論理的にはなく感覚として音楽に人々が集い結びつける力がある事を感じたのではないかと思えます。

七〇年代は街頭デモをしていても、政治集会、職場集会でもよく歌を歌ったものです。この歌をうたうことでそこに集まった人達の一体感、連帯感により強くなっていくのを感じ、その中に自分が存在している事に充実感を感じていました。

「インターナショナル」が「がんばろう」などは、こういった集会やデモで覚えた人が多いのではないのでしょうか。

ただし正確に歌うことはあまり無く、そのセクト、団体によってそれぞれの流儀みたいなのがあって、それはそれなりに面白いものでした。

私は歌うことが好きだから何処で歌おうと苦にならないが、何百、何千と集まった人達が声をそろえて歌うのはひとつの世界を創り出す。やはり音楽には人々を結びつける力がある。それは音楽の魅力と言ったのではないだろうか。

音楽は誰かと共有する事で存在するものだと思う。だから音楽は面白いのだ。

それは同じ演奏者であったり、聴き手であったり、創り手であったり、当然そこには人間としての交わりが存在しなければならぬ。

音楽はコミュニケーションであり、表現することであるとすれば、聴き手として存在するのではなくて、自分を表現する創り手として存在すること、つまり日音協の基本理念である「つくり、うたい、ひろめ、つなぎあつ」は極めて自然な音楽の在り方を言っている。自分の中では、集会、デモに参加することと音楽をする事は、自分の思い、考え方を表現するという事では同じ事なのです。

だから七〇年代に組合活動、街頭デモ、集会と音楽活動、

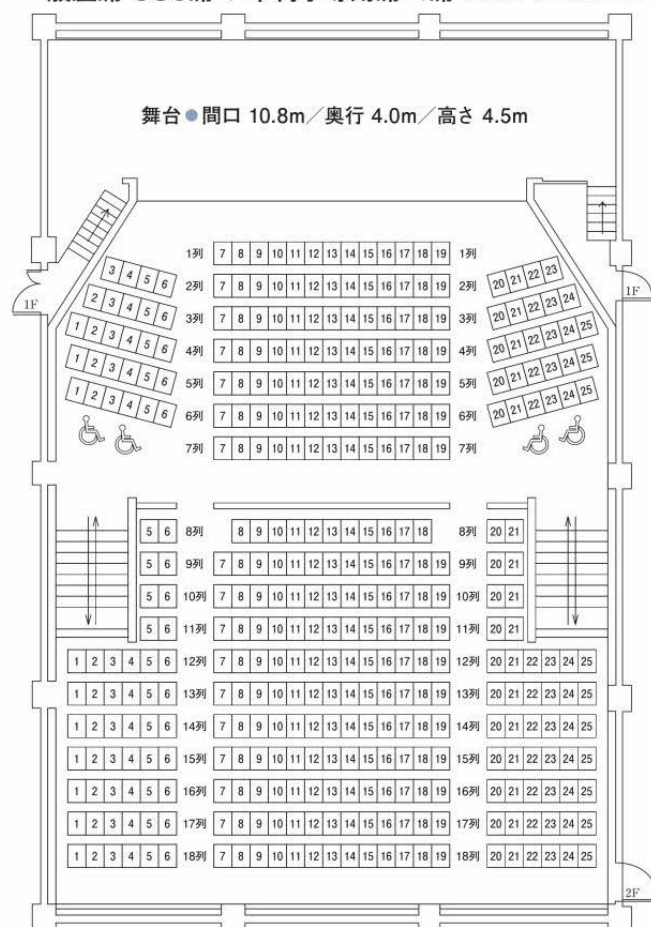
第53回はたらくものの音楽祭

ホームページ等ではお知らせしておりましたが、下記の日程で開催予定です。(詳細は随時掲載予定)

1. と き 2022年9月3日(土) 13:00~
4日(日) 12:30
2. ところ ザ・ヒロサワ・シティ会館(茨城県立県民文化センター)小ホール
3. テーマ 東雲(しのめ)に歌え 再興を
今こそ労働運動の前進を
※参加の準備をお願いします。

茨城県立県民文化センター 小ホール座席表

一般座席 386席 + 車椅子専用席 4席 (平成29年1月28日以降)



= 2022 沖縄行動感想 =

長野県支部 佐藤 満

参加者が少なかったことは残念ですが、コロナ感染拡大の状況下で、実行委員会、各参加団体の努力により規模を縮小しながらも、平和行進・県民集会を成功させたことは、復帰 50 周年、辺野古新基地阻止の上からも意義のあったことと思います。

演奏の機会が平和行進お迎え演奏 1 回だけになってしまったことは残念ですが、これも規模縮小のためやむを得なかったことと思います。

平和行進へは部分参加でしたが、参加者との一体感が持てて良かったと思います。平和行進は全体行動の主要部分であるので、「日音協は別」ではなく今後も組み込んでいくべきでしょう。

「命を守る会激励行動」は時間の制約もあって、物足りない感じがしました。また、「激励」というのは私にとっては、おこがましいというか上から目線の感じがしてしっくりしません。辺野古新基地問題の当初からずっと座り込みを続けてきた運動の大先輩の話を聞いて、「自分も頑張らなければ」と思いを強くします。むしろ励まされるのはこちらです。言うなれば「連帯」の方がしっくりします。

今回も沖音協の方々には、演奏のためのテント準備設営、その他裏方の支えをしていただいて有り難うございました。(2022.5.21)



ステージの奥行きは狭いです!

どちらかなり熱中してやっていたのだが、どちらもあり矛盾する事無くやれた理由はここにあります。
これからのスタンス、スタイルで生きていきたいと思っているし、生きていくでしょう。
こうしてみると、自分が音楽のある生活を出たことで、どれだけ豊かな楽しい人生を送る事ができたか。もし仮に音楽の嫌いな人生を送っていたら

(2面から続く)

したら、それは想像できない。
今、音楽好きの自分があるのは、親、学校の先生、そして社会に出てからも自分の周りにはいつも音楽好きの人がいて、その人達に導かれ育ててもらった思いがします。
特に、日音協との出会いは今の自分を育ててくれた(育てての親)です。
音楽に感謝、日音協に感謝。
(※編集部より『たかが歌されど歌ー日音協三〇年と私』の掲載は一旦終了します。)

谷森駿 (港大尋) 講演会とコンサートのオンライン配信

2022 年日音協セミナー・2022 若い会員の交流会は、6 月 3 日から 5 日まで東京都小平市で開催する予定でしたが、期日の 1 か月前の 5 月 3 日現在なお新型コロナウイルス感染症が収束していないことから、中止することにいたしました。そして、これに代わる企画として、2022 年日音協セミナーと日音協 2022 若い会員の交流会との合同のカリキュラムとして計画していた、谷森駿 (港大尋) さん (第 50 回はたらくものの音楽祭ゲスト、2020 年日音協セミナー講師) の講演、そして谷森駿 (港大尋) さんと笠村勇樹さん / 小笠原もずくさんとのコンサートを、下記によりオンライン配信いたします。なお、港さんは現在ペンネームを「谷森駿」に統一している最中です。

記

1 谷森駿講演会

(1) と き 2022 年 6 月 4 日 (土) 13:00~16:15 (途中 15 分休憩)

(2) オンライン配信

学園坂スタジオEスタジオから zoom ミーティングを使って配信します。zoom ミーティングの URL やミーティング ID、パスコードは、参加申込をいただいた方に 6 月 3 日までにお知らせします。

(3) 講演内容

テーマ「ワールドミュージックの教え：ブラジルやアフリカの音楽、沖縄や奄美の民謡、広義のジャズ (北アメリカ、上記以外の地域の音楽、ラップなども含めた黒人音楽全般など)」を基本に、谷森 (港) さんの現在の思いを織り混ぜながら、90 分×2 コマで進めます。参加者からオンラインで質問、感想などを受ける時間も設けます。

2 谷森駿コンサート with 笠村勇樹 & 小笠原もずく

(1) と き 2022 年 6 月 4 日 (土) 19:00~20:30

(2) オンライン配信

学園坂スタジオAスタジオから YouTube ライブ配信で配信します。

URL 等は、参加申込をいただいた方に 6 月 3 日までにお知らせします。

(3) 出演者 谷森駿 (歌とピアノ、ギター)、笠村勇樹 (サキソフォン)、小笠原もずく (ボーカル、ピアノ)

(4) zoom 打ち上げ会

終演後、zoom 打ち上げ会を行います。それぞれ飲み物 (アルコール可) 食べ物を用意していただいて、zoom ミーティングを使って演奏の感想を語り合い、谷森さん、笠村さん、小笠原さんとざっくばらんにお話ししましょう。終了は 21:30 を予定します。

3 費用負担

参加者に参加費をいただくことも、日音協から諸費用をお支払いすることはありません。

4 参加申込

参加を希望される会員、音楽仲間は、6 月 2 日 (木) までに、①お名前、②講演、コンサート、zoom 打ち上げ会それぞれに参加かどうか、③インターネットメールまたは SNS での連絡手段、を明らかにして申し込んでください。

日本音楽協議会 インターネットメール nichion@yomogi.or.jp

ファクシミリ 03 6369 3057

電話 03 3221 1821

5 その他

(1) 各支部から 1 人以上参加いただけるように、取り組みをお願いします。

(2) zoom ミーティングは現在のライセンスで 100 人まで参加可能です。コンサートは YouTube ライブ配信ですから、この制限外です。90 分が 3 単位 + 打ち上げ会ですから、デバイスの電池切れにならないようにご注意ください。



【笠村勇樹】プロフィール

1997 年生まれ 東京生まれ
音楽大学在学中から、歌の集まり“風”の専任指揮者として 3~4 回離れた団員を前にタクトを振る。現在 20 代半ば。専門はサックス。CD 制作、コンサート、ライブ活動をこなす一方で、サックスの個人指導。今年 4 月より中学校の吹奏楽部専任講師を務める。



【小笠原もずく】プロフィール

1992 年生まれ。福島県出身。
ポップ・マーリーの音楽や思想に憧れ、シンガーソングライターとして演奏活動始める。主に都内でピアノ弾き語りライブ活動 continues、2014 年には Kuyuki とともにボーカルユニット『星とレタス』を結成。ソロやユニットでの活動の傍ら、別名義で楽曲提供やバックコーラスなども行う。



戦争反対! 核兵器反対!

5.1 香川県中央メーデーうたごえ



井下さん 岡さん 細川さん

晴天のサンポート多目的広場、ロシアのウクライナ侵略に抗議して小島力さん作曲の「peace & happy」を、中でも「戦争反対、核兵器反対」の歌詞を出来るだけ入れ込んで高らかに唄いました。

日音協香川県支部の井下、細川、岡、音響の三好の4人で、9時半から10時まで参加者を迎える開会セレモニーとしてメーデー定番の「どんなに時が流れても」「決意」「聞け万国の労働者」「peace & happy (一部替え歌)」「がんばろう」の5曲を繰り返し歌いました。細川のギターは普段の練習が足りずストロークが少しぎこちない。それを補ったのは、急遽単身赴任先の京都から帰省した岡と井下のボーカル対細川のハーモニー、そして何といたっても三好自前のPAのおかげでいい音が多目的広場に響き、気持ちよく演奏できました。

当日の様子は以下をご覧ください。

<https://fb.watch/cKUnuM5Vha/>

(細川)



日音協の日程(経過と予定)

5/22 第7回日音協幹事会
6/26 第8回日音協幹事会
未定 はたらくものの音楽祭茨城県実行委員会
7/30~31 全国代表者会議
7/31 第9回日音協幹事会
9/3~4 第53回はたらくものの音楽祭(茨城)
11/12 日音協全国総会

アコニストのためのドック

全国アコニストのつどい 2022

2022年第3回「全国アコニストのつどい」を呼びかけます。2021年はコロナ禍の影響で中止せざるをえませんでした。全国で様々な工夫で活動が続けられる方も多くいます。昨年から会場が貸別荘となった関係で宿泊費を上げざるを得ませんでした。自らが「音楽する」ことに重点を置き一年間の活動を見直し交流をする中でアコニストとしてより発展をしていくためのきっかけとなる「ドック」のような「つどい」にしたいと考えています。

- と き ●2022年9月16日(金) 15:30
~18日(日) 10:30
- ところ ●さつき会館 静岡県伊東市湯川
6-686-1
- 費用 ●42,000円 参加費=17,000円/宿
泊費=25,000円(2泊5食、交流会
費含む)
- 講師 ●窪田聡
- 申込先 ●参加申込書は遅れても必ず提出のこと
送り先 〒264-0029
千葉県若葉区桜木北 2-2-2-319
岩藤 範雄
TEL/FAX 043-235-2580
n.iwatou@gmail.com
iwatou@mar.email.ne.jp
- 申込締切 ●8月22日(月)必着

【カリキュラム】(要旨)

第1日(9月16日)

- ・課題曲演奏 バイエル No.74
- ・コードアレンジ法
- ・交流宴会①

第2日(9月17日)

- ・即興曲に挑戦
- ・“新しい曲”に触れる
MENUET (G.Bizet) / 白い恋人たち / 狩人のポルカ
- ・個人練習
- ・交流宴会②

第3日(9月18日)

- ・成果発表

なお、詳細は、事務局(主催:全国アコニストのつどい実行委員会)の岩藤さんにお問合せください。



2013年の参加者のみなさん

歌の力が物語るもの

106

葉葉坂つた行動 5/6 (441回) 報告 Rico

【参加者】モッチー、イサさん、モリヤさん、達哉、森 計5名

18時半、ビルの高層階にはまだ陽があたっている。旗を立てて準備。5月は憲法記念日があり、沖縄の「復帰」の日がある。国会議事堂に向け、うた行動の思いも強くなる。

『あたりまえの地球』を歌う。「あたりまえ」と感じる日常を、いつまで残せるだろう。そして私たちの「あたりまえ」は、遠い地でも「あたりまえ」たり得るかとも思う。『月桃』『ふるさと沖縄』を続ける。警察官が寄ってきた。歌の途中、さすがに伴奏者に声をかけるのはためらわれたのだろう。

端で歌っているモッチーやイサさんに何か尋ねていた。「いつもやっているのか」「何時までやるのか」「何人集まるのか」という曲が終わると再度やってきて、「1時間ぐらい歌うそうですね。」と言うので「一緒に歌っていきませんか」と声をかけてみた。

『ふるさと沖縄』『ジューンのすむ海』ではモリヤさんがハーモニイをつけてくれて、合唱になった。うた行動の醍醐味だね。『私たちは許さない』では「オスプレイ配備を」「戦争への道」と替えて歌った。米軍基地だけではなく、自衛隊基地の建設も進められ、集落のすぐそばに弾薬庫が造られる。まさに戦争への

準備ではないか。モリヤさん紹介の『帰れ 帰れ』で「アメリカに帰れ!この地に戦争は要らない!」と歌う。実はこの曲のなかには「帰れ 帰れ アメリカに帰れ この国にアベ政治は要らない」とあって、「いや、返品されるんじゃない?」「そこはクーリングオフお断りしてことごと」と大笑い。

そして憲法。『決意』を歌う。続ける『はばだけ憲法九条』『私は忘れない』はどちらも九条を世界へと広げていく。『声よ集まれ 歌となれ』『大きな橋』の思いこそが平和への道ではないか。どんなに武器を揃えても、橋はかけられない。

先日の防衛省前の抗議行動の話になった。正門対岸に「自衛隊に感謝する〇〇〇」とかいう団体を名乗って妨害アピールをする人がいて、「誰のおかげで平和でおいしいご飯が食べられるか」と怒鳴っているんだ!と怒鳴っ

ただ、いや、それ労働者の労働の賜物じゃんって、つつこみたくてさ、と。その話題にひっついて、妨害行動にはどうやら時給があるらしいこととか(※真偽の程は確認できていませんので、あしからず)、沖縄でも海保を乗せる漁船に対し1日数万円が支払われることとか出てきた。税金を使ってもってまで妨害される私たちの権利。使い道を限定させて税金を納めたい。

終了時間間近でヒートアップしてきたが、先は長い。今日は終わろう。『原子力発電NO!』で締めくくった。



達哉 です

水道橋だより

▼東北北 WEB コンサートの映像の編集が難儀しているようです。なかなか思うようにいかないようです。

▼青森のSさんは「みんな下手くそだなあ〜」と言いながら、「よくここまでやれるようになったなあ」と評価していましたヨ。(佐藤)

▼思えば20歳の前の1975年、一人旅で西鹿児島からフェリーで沖縄へ。何も知らない私。バスのガイドさんは基地・沖縄の現状をアナウンスしていた。が、三沢基地との違いもあり、どうにもできないなと思っていた。▼その後何度か訪れたが、まだまだ分からないことも多い。▼沖縄の日本復帰50年。青森でも何をすればいいか、日々考えている。(佐藤)
▼編集の終盤で『アコを弾く天羽』の写真を入手。掲載します。結構きびしそうな雰囲気ですね。(佐藤)



どん行

(155)

飯島貞親

出されているのは、50年経ってもまだ「安保体制下の日本」が増長し続けているのを止められない本土人の不甲斐なさを見るべきだろう。

▼5月15日は沖縄の日本復帰50年の節目で、さまざまな特集が組まれた。しかし、「復帰50年」は虚しくて、「祖国の懷に帰ることができさえすれば軍事占領下の苦しみから逃れることができる」という目標から半世紀を経たというのに、沖縄の人々の苦しみは少しも軽減されてはいない。どうしてこんなスレ違いが生まれたのか。沖縄人が望んだのは「平和憲法下の日本」だったにもかかわらず、実際にあったのは「安保体制下の日本」だったからだろう▼佐藤内閣によって沖縄返還問題が対米交渉のテーマとして取り上げられた60年代半ばは、国民の間では60年安保闘争の「敗北」の後で「平和憲法下の日本」が泥まみれになって地を這い、「安保体制下の日本」がまかり通っていた。だから本当は本土人は沖縄人に向かって、あの時「申し訳ないが、今の祖国は皆さんを平和憲法下に温かく迎えるという状態ではないので、帰ってこないでくれ」と言うべきだったのだろう。まさかそうは言えないから、復帰を歓迎するふりをしてしまった。▼だから「復帰50年」で照らし